

(9) 四国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

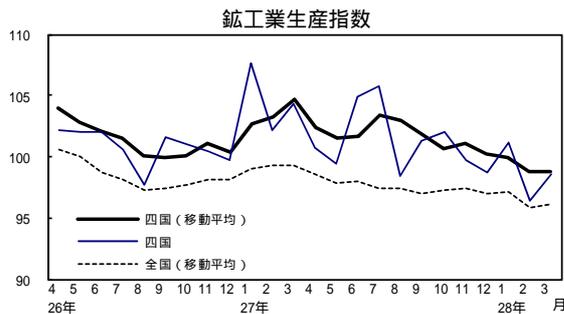
前回調査からの主要変更点

| | 前回 (平成 28 年 2 月) | 今回 (平成 28 年 5 月) | |
|------|------------------|------------------|--|
| 住宅建設 | 大幅に減少 | 増加 | |

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は弱含んでいる。

1～3月期には、化学は、医薬品の生産計画の都合や、樹脂原料の減少等から減少した。電気機械は、蓄電池の増加等から増加した。食料品は、新製品の投入などから増加した。はん用・生産用機械は、納期のタイミングなどから減少した。非鉄金属は、電気銅で設備修理があったことなどから減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

| | 付加価値 ウェイト | 生産 | | | | |
|-----------|--------------|-------------|-----------|------|------|------|
| | | 10~12 月期 | 1~3 月期 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 化学 | 22.9 | 3.8 | 5.6 | 11.8 | 4.1 | 17.6 |
| 電気機械 | 15.8 | 0.2 | 8.9 | 5.4 | 1.7 | 9.7 |
| 食料品 | 10.5 | 6.6 | 8.1 | 11.1 | 2.4 | 1.7 |
| はん用・生産用機械 | 10.0 | 0.3 | 14.9 | 19.8 | 16.0 | 25.4 |
| 非鉄金属 | 8.0 | 0.6 | 2.6 | 2.0 | 1.5 | 2.2 |
| 鉱工業 | 100.0 | 1.6 | 1.4 | 2.5 | 4.6 | 2.2 |

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

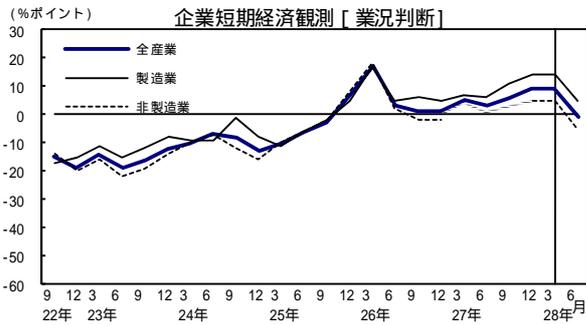
2. 1～3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

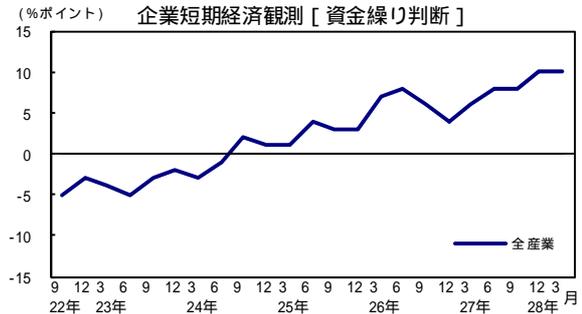
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

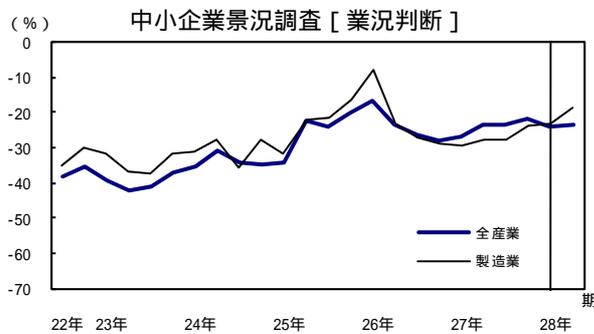
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年6月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

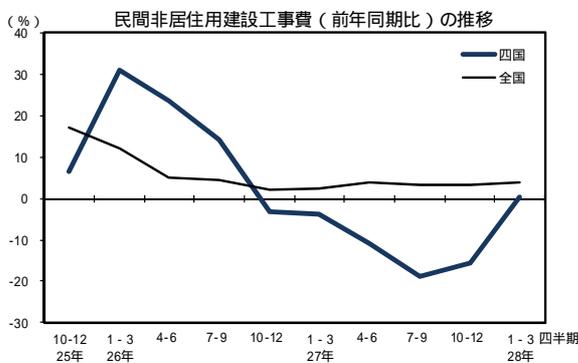


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「全体的に利益等については前年よりも悪くなっている。業種によっては若干良くなっているところもあるが、総じてやや悪化している(公認会計士)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

| | (前年度比、%) | |
|------|------------|--------|
| | 27年度実績見込み | 28年度計画 |
| 全産業 | 8.2(6.3) | 5.6 |
| 製造業 | 2.0(0.7) | 4.7 |
| 非製造業 | 18.0(17.5) | 6.8 |

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

(9) 四国

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.1%増、2月は同0.7%減、3月は同2.3%増となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、化粧品や宝飾品は好調であったものの、衣料品は気温が高めに推移し冬物セールが苦戦したこと等から前年を下回った。2月は、化粧品、宝飾品、飲食料品は好調であったものの、衣料品は冬物セールの苦戦に加え、春物の動きが鈍かったこと等から前年を下回った。3月は、衣料品は中旬以降の気温低下の影響もあって春物の動きが鈍く、飲食料品も催事が振るわなかったこと等から前年を下回った。

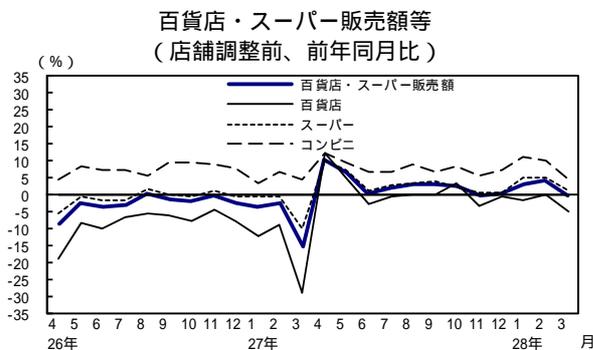
スーパーは、肉類の相場高や総菜など飲食料品が好調であったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、41.8となり前月より2.3ポイント低下した。

「衣料品の苦戦が続いていることに加え高額品が低調で、2～3月と比べても売上トレンドが悪化している (百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

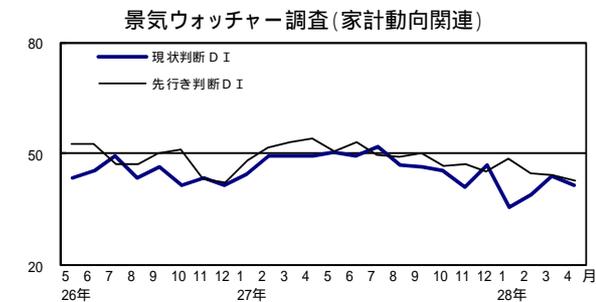
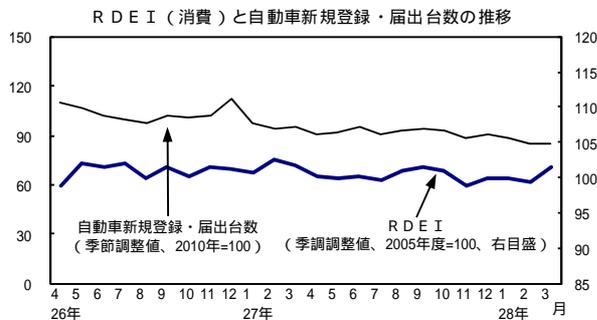
| | 28年1-3月 | 28年1月 | 2月 | 3月 |
|--------------|---------|-------|-----|-----|
| RDEI (消費*1) | 0.3 | 0.1 | 0.7 | 2.3 |
| 百貨店・スーパー(*2) | 2.4 | 3.4 | 4.1 | 0.1 |
| 百貨店(*2) | 2.3 | 1.5 | 0.1 | 4.8 |
| スーパー(*2) | 3.7 | 4.9 | 5.3 | 1.2 |
| コンビニ(*2) | 8.4 | 11.1 | 9.9 | 4.6 |
| 乗用車(*3) | 9.3 | 9.9 | 9.6 | 8.7 |
| (季節調整値)(*3) | 4.9 | 2.9 | 3.3 | 0.0 |



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

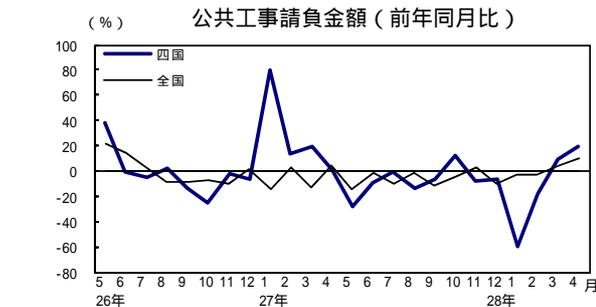
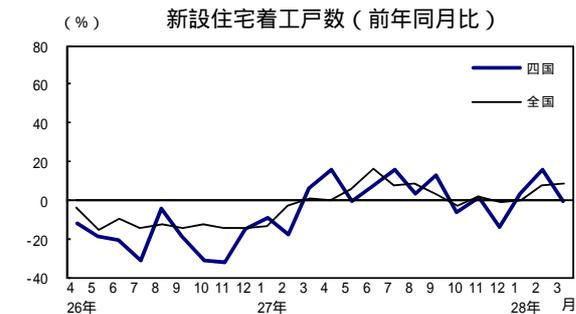
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

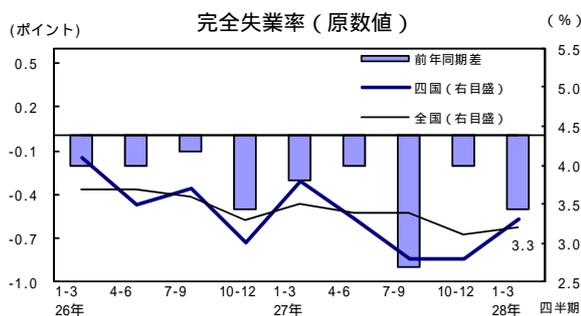
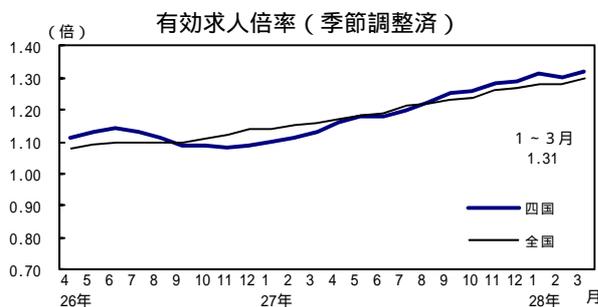


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[雇用関連 (現状)]

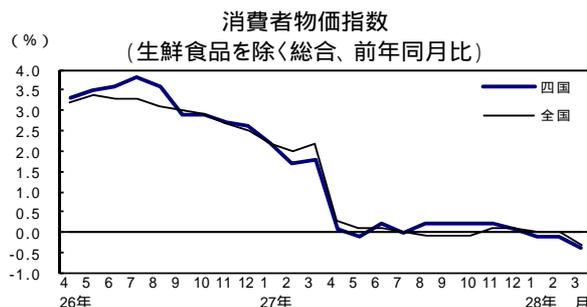
「高い求人倍率と人手不足感は増大しているが、企業側も先行きへの不安感から雇用条件への効果が出ていない(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は、下落に転じている。

企業倒産

| | (件、億円、%) | | | | |
|-------|----------|------|--------|---------|-------|
| | 27年4-6月 | 7-9月 | 10-12月 | 28年1-3月 | 28年4月 |
| 倒産件数 | 40 | 36 | 47 | 44 | 15 |
| (前年比) | 31.0 | 25.0 | 6.8 | 22.8 | 36.4 |
| 負債総額 | 60 | 80 | 83 | 118 | 24 |
| (前年比) | 63.0 | 49.7 | 41.4 | 16.4 | 40.4 |



景気ウォッチャー調査 (4月調査結果)[合計 (景気判断において熊本地震に言及したもの)]

<現状>

- ・宿泊客はそこそこであるが、レストランや宴会場の来客数が減ってきている。熊本地震を受けて自粛等の理由から予約キャンセルが発生しており、今後は悪くなると考えている(都市型ホテル)。

<先行き>

- ・熊本地震や大手自動車メーカーの燃費不正問題などマイナスイメージのニュースが多く、今の状況では消費の伸びは期待できない(乗用車販売店)。

